

教室から博物館へ—「洛中洛外図屏風」を用いた調べ学習の展開事例—

昭和学院中学校 神山 知徳

1. 実施学年および教科領域

中学校第1学年 社会科

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 主題名

戦国時代の京都の町から、祭りや信仰に関することを見つけ、調べよう。

(2) ねらい

私が以前試みた実践¹は、情報教室のPCと屏風絵のレプリカを使ったものであった。これはネットにつながる環境にあればどこでも閲覧できる歴博 web ギャラリーと、使い勝手の良い貸し出し教材「洛中洛外図屏風」を主な教材としている。

しかし、最低でも2時間連続で実施する必要があり、かなりの準備と手間がかかる。平常の限られた授業時数で、学習意欲を喚起し高い学習効果が見込まれる実践でなければ、いくら魅力的な教材であっても、多くの教師は二の足を踏むことになる。どうすれば一人でも多くの教員に、屏風絵のレプリカと歴博 web ギャラリーという魅力溢れる教材を、実際の授業で使ってもらえるだろうか。さらにその魅力的な教材をきっかけに生じた興味や関心、疑問をより深め、調べ学習などの発展的な探究をおこなう場として、歴博などの博物館を活用していくにはどうすればよいか。調べ学習の場として博物館にはどれほどの可能性が秘められているか。

さて、本実践で中心に取り扱う「洛中洛外図屏風（歴博甲本）」は、初期洛中洛外図屏風の中でも現存最古の洛中洛外図屏風であり、歴史資料として高い価値を持っている。成立年代は1525（大永5）年と推定され、発注者は細川政元の後継として幕府の実権を握る管領細川高国であると考えられている。この屏風絵には、京都の町の様子が裏側に至るまで精細に描かれ、応仁の乱を経て新たに勃興する京都の特色が見事に活写されている。

「洛中洛外図屏風（歴博甲本）」が、管領細川高国という特定の発注者の意向を受けた描写になることは当然のこととしても、歴博甲本もまた他の初期洛中洛外図屏風と同様に、右隻の左側（第6扇）から右側の順に1月から6月、左隻の左側（第6扇）から右側の順に7月から12月と、時計回りに季節が描かれ、原則としてその時期に対応した祭礼や年中行事が描き込まれている。その周辺には、それに応じた季節の光景が描かれている。その意味では、初期の洛中洛外図屏風を教材にするに際して、季節に応じて人々が集まり祭礼や行事を営んだりする普遍的な光景に注目するのは、ごく自然のことといえるだろう。

ところで洛中洛外図屏風には非常に多くの人物が登場し、情報量もあまりに膨大で

¹拙稿 「歴博を教室の中へ持ち込もう—PCで戦国時代の京都を探検する—」『学校と歴博をつなぐ—平成20・21年度博学連携研究会議実践報告書—』2010年 国立歴史民俗博物館

ある。前掲拙稿「歴博を教室の中へ持ち込もう」での試みが、やや消化不良に終わってしまったのは、そうしたことが大きな要因であった。そこで初期の洛中洛外図屏風に共通する季節ごとの祭りや信仰、年中行事に関わる光景に着目させ、その周辺に描かれたいくつかの情報も併せて、屏風絵の読み解きができるようにしたい。またそこで新たに生じた疑問や気づいたことなどを手がかりに、文献調査や博物館見学などを通じて発展的な調べ学習ができるよう支援したい。

(3) 博物館との関連（使用資料・教材・レプリカ）

- ・歴博 web ギャラリー（<http://www.rekihaku.ac.jp/gallery/webgallery.html#c>）
- ・貸し出し教材「洛中洛外図屏風」床置きパネル（レプリカ）
- ・『京都修学旅行ハンドブック』（<http://kyotoshugakuryoko.jp/information/handbook.html> からダウンロード可）掲載の「伝統文化」（6・7頁）「京都市広域図」（12・13頁）
- ・「情報整理メモ」、「祭り・信仰チェックカード」、「『レプリカとPCで戦国時代の京都の町を歩く』の感想その1」、「『レプリカとPCで戦国時代の京都の町を歩く』の調べ直しワークシートその2」などの各種自作ワークシート。

3. 指導計画

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	指導上の留意点
導入	10分	○本時の授業の進め方について説明を受ける。 ○PCの使い方について説明を受ける。 ●宿題の確認 ・「京都市広域図」をみて、知っている寺社にすべてマークする。 ・「伝統文化」をみて、すでに知っていたことは赤で、初めて知ったことは青でアンダーラインを付ける。	・教師側PCで生徒側のPCの様子をみながら授業を進める。作業をする時間以外は、ネットに接続できないようにしておく。 ・洛中洛外図屏風の床置きパネル（左隻・右隻）は向かい合うようにして並べる。
展開	10分 25分	○別紙1「情報整理メモ」（右隻・左隻）を使って、京都の町並みを把握する。 ●別紙1に描かれている建物が「京都広域図」のどこにあるかを、色ペンで印を付けて確認する。 ○3班（12名）ずつ左隻・右隻を対面させて配置した屏風絵の上を靴を脱いで歩く。 ○右隻の南から北へ、左隻の北から南へという形で、最低でも一周して、作業をおこなう。	・代表的な寺院・寺社については、貼り札の横に解説用貼り札を粘着力の弱いドラフティングテープで仮止めする。 ※レプリカの印刷面の保護のため、必ずドラフティングテープを使用する。糊、セロハンテープ、ガムテープなど、剥がしたときに糊跡が残ったり、印刷面を損

		<ul style="list-style-type: none"> ●PCやレプリカで、祭礼・信仰に関わる場面を観察する。 ●別紙1に、祭礼・信仰に関わるものうち、特に気になるものを3点記入する。 ●PCで見たものをレプリカで見つけ、その場所に付箋を付ける。 ●付箋を付けた中でも特に気になる箇所を1つ挙げ、その周辺で気がつくこと、疑問を別紙2「祭り・信仰チェックカード」へ記入する。 	<p>傷する恐れのある粘着力の強いテープ類は絶対に使用しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に屏風の上を歩くことで、京都の町並みの空間把握をさせる。 ・時間の制約上、生徒の関心が拡散しないように注意する。 ・付箋を付けた状況を写真に記録する。別紙2の回収。
まとめ	5分	○教員は生徒の代表的な意見や疑問、教員からみて興味深い点などを紹介する。冬季休業中に希望者を歴博に引率し、今回の屏風絵に関連した展示物を探しに行くことを伝える。	・回収した別紙2の内容を集計して、次回の授業の始めに、疑問や意見を共有することを伝える。

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	指導上の留意点
導入	5分	○前回の授業の内容について簡単に振り返る。 ●祇園祭、風流念仏、金閣など	・前回の授業で印象に残った点を発言させる。
展開	15分	○教師は「祭り・信仰チェックカード」の内容と生徒が選んだ「洛中洛外図屏風」の祭り・信仰の場面の内容を紹介する（別紙3の11/22の作業の欄）。 ○生徒は、自分が選んだ場面を他の生徒がどのように理解していたかを聞く。	・生徒が選んだ場面ごとに並び替えて表を作成する。同じような場面を選んだ他の生徒が、違う見方をしていたりするなど、お互い気づいたことを共有できるように資料を工夫する。
まとめ	5分	○教師は別紙4「『レプリカとPCで戦国時代の京都の町を歩く』の感想その1」を配布して、①各自の「祭り・信仰チェックカード」の記載内容を転記させ、②友達の気づいたこと、疑問に思ったこと、先生からのヒントなどからどのようなことが新たにわかったか、③どのようなことを調べ直したいかを書いて、翌週の授業までに提出するよう伝える。（別紙3の11/29の作業の欄）	<ul style="list-style-type: none"> ・翌週の授業で、別紙5「『レプリカとPCで戦国時代の京都の町を歩く』の調べ直しワークシートその2」を配布し、冬季休業中の宿題であることと、調べ学習の機会として、歴博に希望者を募って行くことを伝える。 ・くれぐれもインターネットだけの調べ学習にはなら

			ないようにきちんと伝える。博物館や文献による調べ学習を推奨する。
--	--	--	----------------------------------

4. 実践の概要

本実践は、本校1年4組33名（男子10名、女子23名）を対象に実施した。本時は「室町幕府と経済の発展」、「民衆の成長と戦国大名」、「室町文化とその広がり」（以上各1時間）の後に設定した。

2011年11月22日（火）は本校情報教室で実施した。生徒用コンピュータ40台が円卓10卓に4台ずつ設置されており、それを教師側のPCで様子を見ながら授業を進めた。「洛中洛外図屏風」の床置きパネルは、左隻・右隻向かい合うようにして並べた。さらに事前に京都市中の代表的な寺院・寺社の貼り札の横に、翻刻した解説用の貼り札を粘着力の弱いドラフティングテープで仮止めしておいた。これは床置きパネルの印刷面の保護のため、糊、セロハンテープ、ガムテープなど、剥がしたときに糊跡が残ったり、印刷面を損傷する恐れのある粘着力の強いテープ類は絶対に使用しないことが、このパネルを借用して授業に用いるときの最低限のマナーだと考えたからである。この点は、今後館が床置きパネルなどのレプリカを貸出するときの注意事項として明記しておく必要がある。

さて最初の導入で、事前に指示してあった宿題を確認した。「『京都市広域図』をみて、知っている寺社にすべてマークしなさい。」「『伝統文化』をみて、知っていたことは赤で、初めて知ったことは青でアンダーラインを付けなさい。」など。ここでは金閣・銀閣、清水寺、竜安寺、三十三間堂などの著名な寺社や祇園祭などの祭礼がすぐに指摘された。

次に別紙1「情報整理メモ」（右隻・左隻）に描かれている建物が、「京都広域図」のどこにあるかを、色ペンで印を付けて確認した。その上で3班（12名ずつ）が、対面させて配置した左隻・右隻の上を靴を脱いで歩いた。その際は右隻の南から北へ、左隻の北から南へという形で、最低でも一周して、作業をおこなった。このように実際に屏風の上を歩くことで、京都の町並みの空間把握をおこなった。

次に教師が「右隻・左隻を各自のPCやレプリカでみて、祭り・信仰にかかわるもののうち特に気になるものを「情報整理メモ」に記入しなさい。ただし3点まで。」「PCでみたものをレプリカでみつけ、その場所に付箋を付けなさい。」と指示した。なおその際に注意することは、時間の制約上、生徒の関心が拡散しないようにすることで、今回の場合は特に「祭り・信仰」の場面に限定した。

さらに別紙2「祭り・信仰チェックカード」を提示して、教師が「その中でも特に気になる箇所を1つ挙げ、その周辺で気がつくことがあれば書き出しなさい。疑問もあれば書きなさい。」と指示した。その記載例が、別紙3中の「11/22 中の作業」欄である。こうして教師は授業の最後に別紙2を回収し、生徒の代表的な意見や疑問、教師にとって興味深い点と思われる点などをまとめとして紹介した。

2011年11月29日（火）は、1年4組の自教室でおこなった。1時間のうち最初の25

分を本時に充てた。教師は別紙2の内容を集計した別紙3中の「11/22の作業」欄の内容を紹介し、生徒は、自分が選んだ場面を他の生徒がどのように理解していたか、関心をもって聞いた。なおその際は、生徒が選んだ場面ごとに並び替えて資料を作成し、同じような場面を選んだ他の生徒がもっと違う見方や表現をするなど、お互い気づいたことを共有できるように資料の記載方法を工夫した。

次に教師が別紙4「『レプリカとPCで戦国時代の京都の町を歩く』の感想その1」に各自の「祭り・信仰チェックカード」の記載内容を写し、友達の気づいたこと、疑問に思ったこと、先生からのヒントなどからどのようなことが新たにわかったか書きなさい。」「どのようなことを調べ直したいか書きなさい。」と指示し、翌週の授業までに提出するよう伝えた。これを回収して集約したのが別紙3中の「11/29の作業」である。

2011年12月6日(火)の授業で、教師は別紙5「『レプリカとPCで戦国時代の京都の町を歩く』の調べ直しワークシートその2」を配布し、冬季休業中の宿題であることを伝えた。なおその際は、くれぐれもインターネットだけの調べ学習にはならないようにきちんと伝え、博物館や文献での調べ学習を推奨した。特に調べ学習の機会として、希望者対象に歴博での調べ学習を冬休み中の1月6日(金)に実施することを伝えた。

2012年1月6日(金)は希望者対象で特設単元「歴博で調べ学習」を実施する予定であったが、実際この日に調べ学習として歴博に同行した者はなかった。私が担当していない(「洛中洛外図屏風」の授業を受けていない)クラスから2名が参加しただけに止まった。

2012年1月10日(火)の最初の授業で、別紙5のように調べ直しのプリントを提出させた。その成果をまとめたのが別紙3中の「冬季休業中の作業(各自)」である。当初めざした博物館での調べ学習、博物館見学などを通じた発展的な調べ学習をおこなったのはわずかに1名であった。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・今回、祭りと信仰の場面に限定して屏風をつぶさに観察させたことで、教師側も生徒側も比較的取り組みやすい実践になった。
- ・比較的短時間の実践であっても、生徒それぞれが興味深い点を思い思いに指摘し、教え合いを通じてお互いを高めあうということはできた。学習活動における平等性と協働性は今後も保障してゆきたい。それを実現する場が2.(3)で掲げた4点のワークシート類や別紙3の「1年4組の生徒が選んだ「洛中洛外図屏風」の祭り・信仰の場面」である。
- ・さらに冬季休業中の調べ直しを、別紙5のように課した。多くは疑問に思った事柄について調べただけに終わっているが、数名の生徒はより発展的な学習に結びつけている。私が企画した歴博での1月の調べ学習には残念ながら1人も参加しなかったが、保護者と一緒に別日程で歴博に行き、祖父母の実家の近くにある米沢市上杉博物館(山形県米沢市)にも足を運び、「洛中洛外図屏風」上杉本と歴博甲本との比較をおこなっている生徒もいる(別紙3中の選択者L)。

また別に歴博 web ギャラリー、特に e-ラーニングと小島道裕教授の『描かれた戦国の京都』を駆使して、洛中洛外図屏風についての精緻な調べ学習をおこなっている生徒もいる（選択者 I、別紙 5 参照）。さらに祭礼自体に興味を持って、戦国時代から現代まで続く行事にはどのようなものがあるか、町内会の役員をしている祖父に聞き取りをするなどの調査をおこなった生徒もいた（選択者 J）。このように生徒は、博物館見学や文献、聞き取りなど思い思いの方法で調べ学習をおこなっていた。

（2）課題と展望

・本来は、タイトルの通り「教室から博物館へ」と調べ学習のステージを移す形の授業実践を主に展開しようとしていた。しかし、実際にはほとんどの生徒がお手軽な「教室から図書館へ」か「教室からインターネットへ」に終始してしまった。今回の場合は「祭礼・信仰」をテーマにしたが、これを調べるのに適した機会として、博物館展示の見学や学芸員（歴博であれば研究者）への働きかけがある。さらに館内に専門の図書室を持つ歴博であればこそ、図書室を利用した調べ学習も有効である。この点をもっと強くアピールすればと思うと、悔やまれてならない。

・今回「祭礼と信仰」にテーマを限定して授業を展開したが、この結果大半が祇園祭の場面に集中してしまうという結果になった。この屏風には 2 月の鶯合、3 月の鶏合なども描かれており、豊富な情報を見落とすことになってしまった。次にこの実践を試みる際には、「祭りや信仰など、人々が集まっている空間、楽しそうにしている場面を探しなさい。」と改める予定である。

・情報教室の PC の取り扱いについては、まだまだごく一部の教員に限られているのが実情で、使い勝手の良い歴博 web ギャラリーであっても、実際に授業で使うとなると、多くの教員にはなかなか手が出せないのが実情である。

しかし生徒個人の作業をレプリカ観察中心におこなえば、この問題は簡単にクリアできる。歴博甲本「洛中洛外図屏風」の床置きパネルは実物よりも大きめに作っており、画像も鮮明で、生徒の食いつきはかなり良い。その点では、ガラス越しの展示物よりも遥かに観察しやすい。さらに上に乗って観察することもできるという点で、教材としての魅力に溢れている。まずは web ギャラリーでも歴博展示でも構わない。興味を持たれたら、同じホームページにある e-ラーニング版「洛中洛外図屏風『歴博甲本』を読む」（前編・後編）にアクセスしてもらいたい。その上で床置きパネルに直接触れていただければ、いつか授業で使いたいという気持ちになろう。今回のように特定のテーマに絞り、比較的短時間で実践できる授業展開案を開発することは、博学連携を推進する上で大きな意味があるろう。

6. わたしの考える歴博活用案

※校内での学習活動（別紙 5 を配布するまで）については、すでに実施したものと同一。

以下に歴博での調べ学習（別紙 5 を完成させるまで）の授業展開案を追加する。

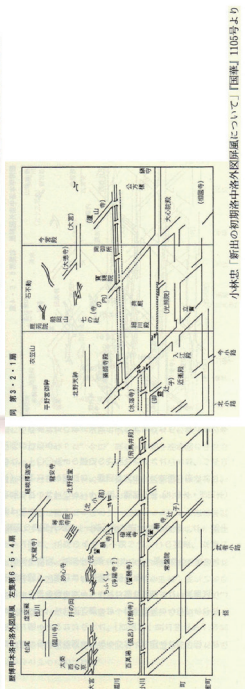
過程	時間	○学習活動 ●学習内容	指導上の留意点
----	----	-------------	---------

導入	30分	<p>○別紙5中の「関心のあること、調べ直してみたいこと」の欄を記入する。</p> <p>○調べ直しをしようとしている事柄について、担当教員または歴博教職員に相談する。調べ直しに必要なキーワードをあげる。</p>	<p>・想起されるキーワードを書き出させる。</p>
展開	150分	<p>○第2展示室にいき、調べ直しに関連する展示物がどこにあるかを、展示マップにしたがって探し出す。</p> <p>○調べ直しに関連する展示物をすべて書き出し、そこからわかることをメモに取る。あわせてデジタルカメラで記録する。</p> <p>○ガイダンスルームでデータを整理し、調べ直しに足りないこと、よくわからないことは何かを明確にする。調べるべきキーワードを書き出す。調べるのにどのような資料が必要かを、教師または歴博職員に相談する。</p> <p>○館内の図書室に行き、調べ直しの事柄について文献調査する。必要に応じてコピーを取る。</p>	<p>・記録用のメモ代わりにデジタルカメラで撮影をさせる。</p> <p>・生徒との応答を通じて、展示物だけでは解決不能な事柄が何かをはっきりとさせる。</p> <p>・調べた文献名・刊行年月日・著者・発行所などを必ずメモさせる。</p>
まとめ	60分	<p>○調べ直した事柄について、関連するキーワードをどう配列すれば良いかを考える。必要に応じて担当教員または歴博職員に相談し、キーワードを配列した樹形図を作成する。目次案を作成する。</p> <p>○（自宅での作業）作成したキーワードの樹形図にしたがって別紙5を完成させる。</p>	<p>・漠然と考えている生徒の思考を、キーワードの樹形図を書くことで明確にするよう支援する。</p>

参考文献

- ・水藤真 『歴博甲本洛中洛外図屏風を読む』（歴博ブックレット⑩） 1999 歴史民俗博物館振興会
- ・国立歴史民俗博物館 『西のみやこ 東のみやこ―描かれた中・近世都市―』2007 国立歴史民俗博物館
- ・小島道裕 『描かれた戦国の京都 洛中洛外図屏風を読む』 2009 吉川弘文館
- ・国立歴史民俗博物館編 『歴博』第164号（特集 洛中洛外図） 2011 国立歴史民俗博物館

左隻



別紙1 情報整理メモ

※ここでは左隻のみを例として示した。実物はB4判。

特設単元「レプリカとPCで戦国時代の京都の町を歩く」の感想
その1 (11月)

- ① 11月22日の授業で作ったカードの内容を、下の表に書き写しなさい。

祭り・信仰チェックカード(1年4組名前)			
気になった祭りや信仰の場面	位置		メモ
	○隻	上・中・下 第△扇	
その周辺で気がついたこと、疑問に思うことなど			

- ② 友達に気がついたこと、疑問に思ったこと、先生からのヒントなどを見て、どんなことが新たにわかったかを書きなさい。

祭り・信仰チェックカード(1年4組名前)			
気になった祭りや信仰の場面	位置		メモ
	○隻	上・中・下 第△扇	
その周辺で気がついたこと、疑問に思うことなど			

- ③ ①・②をへて、どんなことに関心を持ったか(またはどのようなことを調べ直してみたいか)、書きなさい。(※これが冬休み中の課題の一つです。具体的な方法は後日)

別紙2 祭り・信仰チェックカード

別紙4 ※実物はB5判で作成

別紙3 生徒が選んだ「洛中洛外図屏風」の場面リスト(祭り・信仰の場面)と調べ学習(抜粋)

1年4組生徒個人(33名)の活動(11/22の作業)					教師側の支援・その後の変化(11/29の作業)		冬季休業中の作業(各自)
生徒が選択した場面の位置		生徒が選択した場面の内容			選択者	補足説明	調べ直しのテーマ 調べ直しの結果の 認識の変化・深化
右隻 左隻	第何扇	上 ・ 中 ・ 下	気になった祭りや 信仰の場面	その周辺で気がついたこと、疑問に思うこと			
右隻	第1扇	上	人が集まっている。	人が集まっているが、限られた人しか入れないようで、柵の外から中の様子を見ようとしている人がある。	A	ぼくがチェックした、人が集まっているところは、「観世能の舞台」であって、入れない人がある。お金を払って中に入れるのであって、お金がない人は外からのぞいて見ている。→観阿弥・世阿弥親子をはじめとする能はどこでどのように行われていたか、詳しく調べてみたい。	テーマ「観世能の秘密」
右隻	第2扇	上	神輿を担いで、武器を持って鳥居を通っている。	神輿などを担いで祭りのような感じにするのに武器を持っている。	B	昔は武器のようなものを持って豊作を祈っていた。みこしは一つ一つがきれいで、それはどんな意味を持っているのか。	テーマ「かまきりが乗っているみこしを調べる」 中国の故事「蠶螂の斧を以て陸軍の陣を襲がんと欲す」より
右隻	第2扇	中	高台みたいなものに集まって祭りをしている。	庶民たちが騒いでいるようだった。疑問に思うことは、右から左へ春夏秋冬になっていたこと。気づいたことはその地点へ集まっていること。	C	雲の上に人がいて、あれは何なのかと疑問に思いました。→ぼくは屏風をみて、その時代の文化がスケール大きく描かれていて、まるで空から眺めているようで、とても関心を持ちました。	テーマ「おみこしになぜカマキリが乗っているのか」
右隻	第2扇	中	お祭りなのに戦う格好をしている	かまきりみたいなのが山車の上に乗っている。	D	周りは祭りではないけれど、にぎやかに見えた。→なぜ戦うときの格好をしているのか。なぜカマキリが乗っているのか。	テーマ「お祭りなのになぜ戦う格好をしているのか」
右隻	第2扇	中	高い山車を引っ張っている人がある。	大きなカマキリがいる。何で人間たちと一緒にいるのか。	E	金閣の辺りは冬？→冬休みは祇園祭のことについてしっかり調べたいです。	テーマ「足利義満」 参考文献『調べる学習 日本の歴史』
右隻	第2扇	中	何かを運ぶやっかにカマキリが乗っている場面	夏の祭り、祇園祭。神輿みたいな乗り物に子どもが乗っていて、楽器を弾いている。神輿の先が長くて、旗みたいなものが立っている。農民が神輿を引いている。	F	カマキリのことを蠶螂ということ。昔の人は信仰を大事にしているなど思った。→なぜ御輿に蠶螂が乗っているのか。	テーマ「祇園祭の神輿に蠶螂が乗っている理由」
右隻	第2扇	中	高い御神輿の上で笛を吹いている。	高い御神輿(?)みたいなものを担いでいる人がたくさんいる。かまきりが山車の上に乗っている。祇園祭。山車の上に木と人が乗っている。金閣の辺りは冬。	G	大きなカマキリが山車に乗っているのを、蠶螂山という(カマキリ。「一つの斧(=カマキリが前足をあげて進んでくる車に立ち向かう意から、力のない者が力量も顧みず、強敵に立ち向かうことの例え)」。高い御神輿を担いでいるひとがたくさんいる。四条通りを行く函谷銚。→蠶螂山について	テーマ「蠶螂山のカマキリの謎」
右隻	第2扇	中	かまきりが山車に乗っている	この祭りの周辺でも祭りをやっている	H	周りは祭りではないけれど、にぎやかに見えた。他にも色々な祭りをみることもできた。→色々なおみこしがあり、なぜカマキリが山車の上にあるのかかと思つた。	テーマ「なぜおみこしの上にかまきりがいてどうやって使うのか」
右隻	第2扇	中	かまきりまつり	大きいかまきりが車の上に乗って運ばれている。タイヤがあるのに引かずではない。	I	夏の祇園祭だということ、また今でも祇園祭は行われているということ。夏だからカマキリだと思ったが、カマキリではなく、カブトムシとかありそうでも良いと思った。カマキリに何かの意味があるのだから。→祇園祭はカマキリだけではなく、色々なことをするので、他にも調べてみたい。右隻と左隻では季節が異なり、春夏秋冬になっていると言っていたので、気をつけて見てみたいです。	テーマ「戦国時代・京都の毎日」 歴博ホームページ、『描かれた戦国の京都』(小島裕裕著)を使って、初期の洛中洛外図屏風やその様式について調べ、さらに丹念に屏風に描かれた人々の日々の営みを観察している。
右隻	第2扇	中	かまきり	でっかなかまきりが車に乗って運ばれている。	J	お祭りがいっぱいある。→どんなお祭りがあるか調べたい。	テーマ「戦国時代から現代まで続く行事」
右隻	第4扇	下	鳥居のところでお祈りしている。	4人くらいで並んで待っている。みんな槍みたいな物を持っている(果たしてこれは何?)。周りの人達は何で待っているの?	K	えらい人の家の前。→色々な祭りや信仰にもっと興味を持ちました。今度はちがう祭りを調べてみたいです。	テーマ「洛中洛外図に描かれた行列」 参考文献『桃山時代の美術』
左隻	第2扇	上	金閣	冬の様子。雪が積もっている。坊さんが入っていく様子が描かれている。周りに木や山がいっぱいある。冬の場面が描かれている。季節が分かっている。	L	屏風は4つの季節に分かれている。→なぜ一枚の図で季節が分かっているのか、不思議に思った。	テーマ「屏風に描かれている絵の意味」 上杉博物館(米沢市)・国立歴史民俗博物館(佐倉市)で購入した資料の比較。参考文献『歴博』第164号
左隻	第6扇	下	輪になってしゃがんでいる。棒みたいな物を持っている。田植えをしているみたい。	なんでみんな同じ格好をしているのか不思議。真ん中の人は太鼓をたたいているみたいだった。	M	田植えではなく、盆踊りだった。「南無阿彌陀仏」と言いながら輪になっていると言っていた。風流念仏踊り。→なんでこのような念仏踊りをしているのか。なぜみんな同じ格好なのか。どうしてこのような踊りを始めたのか。	テーマ「風流念仏踊り」
左隻	第6扇	下	輪になっている所	一条通近く。男の人が黒い物でたたいている。ほとんどの人が帽子をかぶっている。	N	これは風流念仏というもの。よくみると真ん中の人は太鼓を叩いている。これは何のためにやっているのか、不思議に思った。→これは踊りのようなものをしていて面白い。この踊りの格好を調べてみたい。	テーマ「祇園祭について」 参考文献『河合敦先生と行く歴史がよくわかる京都の本』(JTB/パブリック)、『祇園祭と戦国京都』(河内将芳)

特設單元「レプリカとPCで戦国時代の京都の町を歩く」の調べ直しワークシート
その2 (冬期休業中に実施。最初の授業時に提出)

11月22日の授業と後日の授業をへて、「洛中洛外四屏風」のどんなことに関心を持ったか(またはどのようなことを調べ直してみたいか)、書きなさい。

【関心のあること、調べ直してみたいこと】
奥書へ冬にかけた戸締り行事 ⇒ 「洛中洛外四屏風」ほどのように、描かれているのが、
冬一輪の人のほっとした様子ではないか。香林社。

【テーマ、タイトル】

戦国時代・京都の毎日

【調べる方法】

国立歴史民俗博物館 ホームページ ⇒ webサイト ⇒ (動画) 同レク
描かれた戦国の京都 作者、小島道裕
出版社、吉川弘文館

※インターネットだけではだめ。本で調べるか、博物館や資料館などに行くなどの方法もあり。博物館などでは学芸員などの専門家にも話を聞くことができます。
※本の場合は、書名、作者、刊行年、出版社を明記。何ページに書いてあったかを明記。インターネットの場合は、ホームページのアドレスなどを明記すること。

※11月6日(金)に国立歴史民俗博物館(佐倉市)での調べ学習を実施します。
(ただし希望者のみ)

最初に予想したこと、調べてみてわかったことなど

先生が春へ冬にかけて絵描かせてくれたと、言っていたので、言ってみよう。

【朝倉本】

右夏	左夏
春	秋

右夏(春へ夏)の行事
A ⇒ 正月儀式
B ⇒ 燈合(5かけ本社)
C ⇒ 縁会(おひねり)

左夏(秋へ冬)の行事
D ⇒ 蓮仏会(天道花)
E ⇒ 変り
F ⇒ 石蓮の5月に行事なし!? 印は行かない
G ⇒ 赤山峠
H ⇒ 北の御所
I ⇒ 細川邸(節季侯・門松立て)
J ⇒ 赤松邸

五夏の市書
4月7日に、念仏風流の現物。室置の深決
4月10日〜12日はお祭り、行事がた!
= 取説を優先したいか?

本(P88)

左夏(秋へ冬)の行事
A ⇒ 念仏風流
B ⇒ 玖岡(用)
C ⇒ 赤松邸

右夏(春へ夏)の行事
D ⇒ 赤山峠
E ⇒ 北の御所
F ⇒ 赤松邸

祇園祭の神輿(めし)について... 昔と今

「洛中洛外四屏風」では、神輿が3つと、四角形に分かれています。しかし、今は朱頭が
大形形 → 四角形 → 八角形 となっています。(＝甲本の間違っと思ふせいで)
→ 古代から、形を継承しているのではないかと考えられておられます。

次にいくつか床屋を深掘りして紹介します。(都市社会)

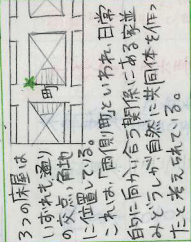
☆床屋1: 甲本に描かれた床屋で「最古」です。
(左巻第6編) 町(今どいう町内会 → 住民組織)ごとにありました。

☆床屋2: 角にある場所 → 東洞院四条町甲北。
(右巻第2編) くとほりておきか番板があられた。

☆床屋3: 四條堂町西にあります。
(右巻第1編) くとほりておきか番板があられた。

最古に全体を見て、一般の人の毎日をみてみました。

- ☆ 親世能(左巻第1編) 9巻に貝のくさくさ、声かけがなりました。
- ☆ 猿回し(右巻第4編) 猿をよけて芸をよつた事をしてた。
- ☆ 魚の振売(左巻第5編) 近くに、今町の魚屋街があるように、行商人が魚を売っていた。
- ☆ 屋棟草走(左巻第2編) 屋根の上の人がいて、雪がまよふような事をしてた。
- ☆ 鷹僧(右巻) 尺八(笛)を吹いて、人がいて、雪がまよふような事をしてた。
- ☆ 遊女(左巻第3編) 通つて客を引いておつた。



調べ直して分かったこと、新たな疑問、もっと深く調べてみたいこと、感想など

私、学校で調べた時は、祇園祭が行われていた位置も、有名な寺など性調べて
いた。家では、一輪の人の毎日を見ておつたと思ひ、調べたおつたにしました。その
学校で調べた時は、見おつたから、京都の面影の街を、たてまつるおつたま
ました。

単国時代は、高松も、昔と今と分けたら、たてまつるおつたにしました。
この屏風には、おつた人々が描かれておつたことを知りました。

1年4組 (No.)